



“ルールに縛られないで、自由に思うようにソロを入れるようにしたんだ” 自らに課したルールを破り、新たな地平に達したDRAGONFORCE LOUD PARK 14での来日を前に6thアルバムをリリース！

Sam Totman (Gt) Herman Li (Gt)
インタビュアー：米沢 彰

ー「Maximum Overload」のリリースおめでとございます！アルバムが完成しての率直な感想を教えてください。

Sam(以下S)：とてもハッピーだよ。いつも作品が完成したら、その結果には満足しているよ。1stアルバムの時だけは、まだもっとというできたとか考えることも多かったけどね。
Herman(以下H)：ハッピーになれなかったら絶対にリリースはしないよ。マネージャーに何て言われようともね。

ー前作ではヴォーカル、今作ではドラムの交代を乗り越えてのリリースとなりましたね。いずれもレコーディングの面で大変だったのではないかとと思いますが、お2人にとって今回の交代劇はどのようなインパクトがありましたか？

S：実際はレコーディングは前のドラマーのDaveが叩いてたんだ。その後にドラマーが交代することになったんだ。
H：(Wikipediaのメンバー・ヒストリーを見ながら) ここに載っている中でも覚えてない人もいないな(笑)。
一同：(笑)

H：あと、ここに載っている最初のドラマーは確か最初のリハーサルに来て会わせただけだ、俺には無理だ”って言って去っていっただけの友人なんだ。

ーそんな人まで載ってるなんて(笑)。

一同：(笑)

ー新たに加入したドラマーの名前(Gee)の読みは“ギー”で合ってますか？

S：いや、“ジー”だよ。ルイージの省略で“ジー”なんだ。

ー“ルイージ”なんですね。Geeのこを検索していると2011年にGee自身がアップしたドラムの完凸口動画が見つかったのですが、Gee自身が熱心なDRAGONFORCEのファンだったのでしょうか？ Geeが加入に至った経緯を教えてください。

H：Daveが続けるかどうか迷ってるってのは感じていたんだ。家族とちょっと過ごしたとか、あまりツアーには出たくないって思っているみたいだった。そして、Samともドラマーをどうするか話したんだ。
S：Geeはどどこだったか、俺たちのライブに来てくれてたんだ。
H：あれはミラノだったんじゃないかな。
S：そうかも。その前に、インターネットでGeeのプレイを見ていて“オーマイガッ！”なん

俺たちは俺たちにできるベストの曲をやろうとしているだけなんだ 自然に出てくる進化だね

て奴だ！”って話していたんだ。俺たちの速い曲をここまで完璧に叩けるのなら、もし次があったらこいつに頼もうって話もしていたから、今回声をかけたんだ。

ーイタリア出身のGeeが加入して、これで相当にインターナショナルなバンドになったものと思いますが、実際それぞれ国籍はどちらでしたっけ？

H：その前に、この表(Wikipediaのメンバー・ヒストリー)には1人抜けちゃってるね。黙ってよう(笑)。
一同：(笑)
S：そうしよう。
H：あ！もう1人抜けてるな(笑)。
一同：(笑)
H：俺は香港の出身だよ。そして皆はまた色々なんだ。
S：俺はイギリスで生まれたんだけど、4歳からはニュージーランドで育ったんだ。その後、1996年に戻ってきた。それまではニュージーランド人と言った方がいい感じだったけど、今は完全にイギリス人の感覚を持ってると思う。そして、Vadim(Key)はウクライナの出身で、Frédéric(Ba)はフランスの出身、Marc(Vo)は生まれも育ちもイングランドの生粋のイングランド人で、今回加入したGee(Dr)はイタリアだね。

ーすごいインターナショナルですね。

H：俺たちがカバーできる言語は相当なものだよ(笑)。

ー海外での活動となると色々大変そうですね。

H：EUは随分楽だから、気にならないね。

ーいきなり1曲目のイントロのリフからちょっと驚きました。スピード・メタルのノリに加えてメロデスに近いリフだと感じたのですが、このリフはどちらが考えたものなのですか？

S：実はベースのFrédéricが考えたリフなんだ。今まではほぼ俺がリフを作ってたんだけど、この曲はFrédéricが作ったから違う雰囲気を感じるんじゃないかな。

ー全体を通して、DRAGONFORCEらしさは活かしながらも、曲によっては新しいアプローチを取り入れているような印象を受けましたが、今作の制作に当たってこれまでと変えたところや変えようと思った部分はあったのでしょうか？

S：俺たちは俺たちにできるベストの曲をやろうとしているだけなんだ。
H：自然に出てくる進化だね。

S：アルバムごとに違うことをやろうと考えているわけではなくて、自然に出てくる曲を作ろうとしている。ただ、同じことを繰り返したくないとは思っているから、リフを思いついた時に、これまでとは違うなと感じたリフを大事にしてきたということはあるかもしれない。でも、大きくスタイルを変えようとは思ってはいなかったんだ。

ー前作ではギター・ソロがやや短めになりましたが、今作ではツインでの掛け合いなどギター・ソロが充実した印象が強いのです。この辺りは前作から意識して変えたリ、ツアーの中で何かが変わってきたりしたということなのでしょうか？

S：それまでのアルバムではいつも5つとか6つとかの多くのソロを入れていて、それはそれで個人的にも楽しかったし満足してはいたんだけど、最近は少ないソロでも十分に楽しめるようになってきたんだ。だから、1つや2つのソロでも十分だった感じのようにしてきた。
H：今まで、いっぱいソロを入れていった中で、例えば4つソロを入れたら、4つ目のソロはあまり気にされなくなってしまうと思うこともあったね。
S：前までは全ての曲に少なくとも4つのソロを入れるように考えて作曲していて、それがベストだったし。そういうルールを10年前の当初から考えていたんだ。俺たちもプロセスを重ねて変わった。ルールに縛られないで、自由に思うようにソロを入れるようにしたんだ。
H：今作では、この曲は4ソロ、この曲は2ソロ、この曲は6ソロって具合に、それぞれのソロの数が違うんだよ。
S：今回は曲によって本当に合う数を入れていったんだ。だから、曲によってたくさん入っていたり、少なかったりするんだ。あと、今回はソロのパートだけに限らず、ヴォーカルが入っているセクションでもその裏にいろんなプレイを入れているよ。

ーTrack.5「Symphony Of The Night」でのチェンバロの導入は新斬で面白いですね。どういったきっかけでチェンバロを使おうと思ったのですか？

H：それもFrédéricのアイディアなんだ。“Castlevania(邦題：悪魔城ドラキュラ)”っていうゲームにインスパイアされて作った曲だよ。“Castlevania”って知らない？

S：ドラキュラが出てくる日本のゲームだよ。
H：“Castlevania”シリーズの“Castlevania：Symphony Of The Night(邦題：悪魔城ドラキュラX 月下の夜想曲)”からインスパイアされているんだ。
S：Frédéricがアイディアを出した時に、日本のゲームからインスパイアされたのはもちろんだけど、日本のメタル・バンドたちや日本のオーディエンスを意識して作るうって話も出たんだ。

ー今作では1曲の中でテンポが大きく変わる曲が多く“DRAGONFORCE＝ハイ・スピードの展開”というイメージを完全に覆しかかっている作品だと感じました。ご自身では実際のところそういった見方には賛成しますか？

S：確かにそう見えるかもね。さっきも言った通り、やりたいことをやるようにしているんだけど、これまでの5枚はとにかく速い曲が好きだったからね。今は前と違ったことをやることに楽しさを感じているけど、アルバムの中にはしっかりと速い曲も入っているから、今までのファンには心配しないでほしいな。
H：そう感じるのは自然だと思うよ。今までの考え方で曲を作っていないんだ。結成当初のルールは、ミッド・テンポの曲はやらない、カバ―はやらない、プロデュースを入れないってものだったんだけど、今作ではルールを全て破ったからね。

ー作品を重ねるごとに、トラディショナルなスピード・メタルから、よりモダンなサウンドを目指しているような印象もあるのですが、ご自身では意識されていますか？

H：アルバムを作るごとに色々としくなってはいるんだけど、ミックスの方法などプロダクションの面で言うと、今作はこれまでとは確かに違って、モダンになっているんじゃないかなと思う。これまでのアルバムはプログレ・メタル的なミックスになっていたからね。リフを特に重視していた今回の曲に今回のプロダクションは合っていたと思う。

ーバンドの中での立場やリーダーという肩書きは忘れて、純粋なギタリストとしてお2人が思う今作の1番の聴きどころをそれぞれ教えてください。

S：うーん……。Track.10「Ring Of Fire」が1番かな。この曲はギター・プレイが最高なんだ。俺のプレイはもちろんだけど、Hermanのギター・プレイも含めてね(笑)。
一同：(笑)
S：Hermanがやっていることもリスペクトできるし、2人のソロ・パートが素晴らしいんだ。
H：Samがやっていることも面白いんだ。Track.8「Extraction Zone」では歌の間で“ドンキー・コング”の音を取り入れたフレーズを入れたりしてるんだ。俺個人としてはTrack.6「The Sun Is Dead」の自分のソロがこれまでにな、フュージョンっぽいフレーズで気に入ってるんだ。

ーLOUD PARK 14への出演も決まりましたね。前は2012年に出演されましたが、その時のことは覚えていますか？

H：LOUD PARKは日本でやった中で最高のショーだったよ。
S：そうだね、最高のショーだった。大型フェスはリハーサルができなくて、終わった後にイマイチだったと思うこともあるんだけど、あの時は本当にベストのショーでできたと思っているよ。オーディエンスも素晴らしいくて、本当に満足していたんだ。

ー最後に日本のファンへのメッセージをお願いします。

S：これはいつも言ってるけど、本音なんて信じてほしい。俺たちのファンでいてくれてありがとう！みんなからのサポートに感謝しているよ。こうしていろんな素晴らしい経験ができるのはみんなのおかげさ！
H：LOUD PARKで会おう！次に会うときはもっと良いライブができると思う。日本に来る度にどんどん良いライブができるようになっていくんだ。以前に俺たちを見て気に入ってくれたみんなにはもっと良いライブを見せられると思うからぜひ来てほしい！
S：みんなアルバムを買って聴いてくれよ！



DRAGONFORCE
Maximum Overload
2014.3.13 ON SALE!

LABEL: WARNER MUSIC JAPAN
GENRE: MELODIC SPEED METAL
MELODIC DEATH METAL
FOR FANS OF: GAMMY, DREAM THEATER

“ドラッグ、スタービー、V、ー……” 動画サイトや某掲示板でも人気のDRAGONFORCE 6thアルバムが到着！ギター・リフを1部Frédéric(Ba)が担当し、これまでと並みか違うトラックが増えた今作。個人差はあるだろうが、この方向性が自分にはまるメタラーは多いのでは！メロデス的なハードコアから強硬にと思える新邦題「ドラッグ」も持つべく、今作の独特の展開が、とするとマンネリだったDRAGONFORCEのサウンドに新しい風を吹き込むことに成功している。“ドラッグ”は速いだけ！一瞬でも思ったことのある人はぜひとも今作を聴いてみていただきたい！LOUD PARK 14での来日を祝っての企画。新たにイタリアン・ドラマー・Geeを迎え、圧倒的スピードにバリエーションある展開を加えた最強最速の布陣がいよいよ日本襲来！ 米沢 彰